

て込めい思いの弔い

大槌、陸前高田で花見

大槌町の安渡小で開かれた花見大会で、「がんばって復興しよう」と乾杯する被災者ら—永尾泰史撮影

暖かい日差しに恵まれた17日、大槌町と陸前高田
市で、花見の会が開かれた。津波で犠牲となった多
くのの人々を弔い、復興への気持ちを新たにしようと
地元住民らが中心になって企画した。大震災で家や
家族、友人を失い、心が重く沈んでいた被災者たち
も、ほろび始めた桜の中で食事や酒を味わい、久
しぶりに笑顔を取り戻した。

大槌町の「弔いお花見会」
が開かれた町立安渡小に
は、400人を超す地元被
災者が集まり、同小を囲む
ように植えられた桜の中
で酒を酌み交わした。

お花見会は、江戸時代の
「南部三開伊一揆」（18
53年）で庄政に立ち向か

った三陸沿岸の農民、漁民
らの勇氣に倣って一步を踏
みだそうと、被災者や民間
支援組織「ほくらの復興
支援—」いわて・ゆいっ
こ」のメンバーらが企
画した。

会では、黙とうの後、ほこ
ろび始めた14本の桜の下、

国の重要無形民俗文化財
「早池峰神楽」や地元の「城
山虎舞」が奉納され、犠牲者
の霊を慰めた。

お酒やおにぎり、焼き
肉、焼き魚のほか、花見
団子も振る舞われた。避
難所で生活する被災者は、
春らしい陽気の下、心休ま
るひとときを過ごした。津
波で義妹らを亡くした菊池
栄治さん(62)は「久しぶり
に楽しい時間を過ごせた。
沈んではかりはいられない
ので、少しずつ前に進
もうという気になった」と
話していた。

